

## 第2回学校活性化那賀町地域協議会

### (1) 那賀高校の活性化について

#### 委員

那賀町からの支援ですが、クーラーの設置や通学の補助もかなりしていただいています。今後とも続けていただける予定なのですか。

#### 委員

那賀高校は地元の高校ですので、できるかぎり補助をしていきたいと考えております。カヌーの世界選手権に卒業生と在校生が出場しましたが、それにも補助を考えております。つまり、活躍をしてくれる人には那賀町として出来る限りのことをしていきたいと考えております。また、これに限らず町としては補助をしていく予定です。

#### 委員

中学校は、町から各種検定への支援補助をいただいています。それも続けていただきたいと思います。中学校・高校と続けて将来への投資ですからよろしくお願いします。

#### 委員

町から高校への補助がこれだけあるところはないと思います。  
これからも、もっともっと活性化していきたいと思います。

#### 委員

本校規模の80名という枠を守らなければならないと思いますが、地元の中学生が少なくなっており、どうしても確保できない場合も出てくると思います。80名に足りなかったら駄目というのではなく、これだけの町の支援があることや、一生懸命やっていることを見て、80名に足りなくても評価してください。

#### 委員

事務局の説明にもあったように制服について、検討してもいいかもしれませんね。

事務局から辻高校の視察報告。

#### 委員

那賀高校は週32時間の授業をしているのに、辻高校では週30時間と伺いましたが、卒業に影響はないのですか。

#### 委員

影響はありません。  
辻高校は30時間の少ない時間でも成果をあげています。

#### 委員

辻高校は1学年150人ですから、那賀高校にも近いように思います。

## 委員

時間もそんなに長くないので難しいかもしれませんが、視察に行ってみて感じた生徒の状況など、肌で感じたことを教えていただきたいと思います。

## 事務局

残念ながら授業の様子は見られませんでした。清掃も行き届いておりますし、生徒も挨拶をしてくれました。教頭と教務課長に対応していただきましたが、部活動が終わってからも多くの先生が残り、非常に熱意を持ってやっているということでした。

## 委員

辻高校は2年生からコース制に分かれていると聞きましたが、入学する時に自分で思っていたコースを選択できているのですか。

## 事務局

本人の希望を優先していると聞きました。コース選択については、それまで進路に関する学習や面談を行い、本人・保護者と協議して決定しているそうです。

## 委員

補習、個別指導がとても充実していると説明がありましたが、生徒にとって、的確に指導してもらい理解を助けてもらえることは、よいことです。

辻高校が非常に行き届いているという感想をおっしゃっていましたが、どこでそう感じたのか具体的に教えていただければと思います。

## 事務局

補習については7時間目に英数国の補習を設定し、文理コースは原則として参加することとしているようです。8時間目については、部活動を優先する生徒もいますが、ほとんどの生徒が受けているとのことでした。

その他のコースについても補習を設定していると聞いています。

個別指導については、職員がみているところで課題を与えられ、学習しているそうです。

また、わからないところを職員室まで質問に来る生徒がおり、それに教員が協力することで自然と個別指導の輪が広がっている状況だと聞いています。

小論文の指導については、大学の入試が多様化し、推薦では小論文を課されることが多くあります。小論文の指導については一人の生徒に何名かの教員が対応し、それぞれの専門分野で対応しているなど、個別指導がしっかりしていると感じました。

## 委員

那賀高校も個別学習についてはよく対応していただいていると思います。

## 委員

那賀高校では、土曜日に学校開放し、数学、英語などの自習を実施しています。ゆくゆくは、講義形式にしていければいいと思っています。

放課後の補習については、帰りのバスの時間など、時間制限がありますが、今後、放課後の活用についても考えていきたいと思っています。

辻高校と那賀高校ではセンター試験受験者もあまり変わりません。センターなしの推薦の生徒も多いので、小論文の指導をしっかり実施したいと思っています。辻高校のいいところを取り入れて、今後、那賀高校の生徒を伸ばしていきたいと考えております。

委員

土曜日の活用ということで、辻高校は土日の活用はどうされているのですか。

事務局

特に土日には補習をしていないとのこと。

委員

本校の場合は、早朝にも補習を実施しています。

特に個別指導については、進学希望の生徒に対し、やっていかなければならないと思っています。

委員

辻高校には、那賀高校にはない良いところや取り入れたいところはありませんか。

事務局

7、8時間目の補習は大変魅力的だと感じ、学力を高めるためには必要だとも思いました。しかしながら、那賀高校では、運動部で活躍している生徒がおり、また、朝の補習を実施しておりますので、導入は難しいかと思えます。

個別指導についても魅力的だと感じていますが、部活の指導などへの影響も考慮して、今後、検討しなければならないと思っています。

事務局から会議資料の説明。

委員

コース設定については、那賀高校の生徒、保護者の希望がどうなっているのかを見極めて考えていきたいと思えます。

本校の場合は、各コースに応じた進路に至っていない現状もあり、現在の就職・進学の状況を知っていただき、検討していただきたいと思えます。

事務局

コースに応じた進路ということで、環境コースでは、森林科学の授業で、実際に森林へ行ったり、環境科学基礎で、地域の調査に行っています。ただ、環境コースの生徒が林業関係に就職はしておりません。コースに関連していない専門学校、就職などの進路状況です。ただ、数名ですが、コースに関連した進路に進んだ生徒もいます。

情報コースについては、その資格を持っていることが就職に有利と考え、ワープロ検定や情報処理検定を受けていますが、情報関係の就職につながっていない状況です。また、進学に関しては、必ずしも情報の専門学校関係等に進むわけではありません。

福祉コースは、3名から5名は福祉関係の施設に就職しています。福祉の関係の専門学校や短大に進む生徒が多くいます。

文系国際コースは、文系の科目を中心に履修し、文系の短大、四年制大学に進学しています。就職もいます。

理系コースは、工学部が多く、理系の教員を目指し、教育学部に進んだ者もいます。理系の四年制大学や看護の短大、専門学校に進む生徒もいます。

## 委員

文系国際コースなどで、生の英語に触れることができるように留学生を呼ぶことはできませんか。英語でもネイティブの英語は違います。招へいすることもそんなに難しいことではないでしょう。寮があるし、可能かと思います。

コースの特色がわかりにくいと思います。生徒の将来の希望に適しているような分け方がいいのではありませんか。

## 委員

他県の私立高校など駅伝などで留学生が来ている学校もありますので、留学生を集めることはできませんか。

## 県教育委員会

県立高校なので県内の子どもを教育することが主眼となります。

従って、今の段階では難しいと考えております。

## 委員

教育効果にからんできませんが、40名が寮生活をしていると聞いています。寮での学習はどのような指導をしているのですか。寮に住んでいる生徒の保護者や、今後入学させようかと思っている保護者の間では、その点を心配しています。特に注意をして指導をしてくださるのであれば、那賀高校に行かせたいと思っている保護者もいます。

## 事務局

20時から20時50分まで学習し、休憩をはさんで21時から22時まで学習しています。この間、舎監が寮内の見回りを行います。現在、入寮している生徒は、とても静かに学習しています。ただ、運動部の生徒が多く、遅くまで練習していますので、その生徒については食事、洗濯などが優先するために学習時間が短くなってしまうことがあります。

## 委員

寮での学習は難しい面もありますが、寮に入っていることから、早朝補習には参加しやすいので、早朝補習を活用し学習環境を充実させていきたいと考えています。

## 委員

新聞での報道を見ると、人気のある高校は定員数の倍の希望があります。小松島西高校の食物科も定員を大幅に上回る希望者があります。これは県下にひとつしかない特色、魅力のある学科だからだと思います。子どもが来たいと思えるような科があればいいと思います。

## 事務局

那賀高校は普通科として活性化していくこととなっておりますので、今、お話しいただいたような専門教育はコースで対応することになると思います。調理師の資格をコースで取るというのは難しいと思いますが、将来、大学や専門学校などにつながる教育をしていけたらと考えています。

商業の教員を配属していただき、ビジネスコースを設置し、簿記などの資格を取得できるようにすることも考えられます。

## 県教育委員会

コースや教育効果を高めるといふことでお話をいただいておりますが、なかなか意見を出しにくいと思われる方もいると思います。資料にもありますように、那賀町内の中学生で町外の高校に行っている生徒が、那賀高校に来るにはどうすればいいのか、那賀高校でこういうことをしたら、町外からももっと入学してくれるのではないかという具体的なことについてもお話しいただきたいと思います。資格の取得や幅広い教育の展開、学習意欲の喚起など、ひとつひとつの意見に教育委員会や学校が今すぐコメントするのは難しいですが、いいと思うことをどんどんご提言いただきたいと思います。

## 委員

子どもが言うのには、中学時代に仲の悪かった先輩がいるから、那賀高校へ行くのは嫌とのことです。

親にしてみれば、阿南市内のレベルの高い学校で勉強させたいという思いがあります。下の子は富岡東高校に行っていますが、学力レベルが違うように感じています。今後、その差をなくしていくようにしなければなりません。学校推薦にも差があるでしょうし、それを縮めていくようにしなければならないと思います。

## 委員

進学への対応をどうするかが大きな課題です。例えば、理系コース、文系コースの人数を20人程度にして、徹底して指導していくというようなことが必要です。人数を絞って指導する方が先生も子どももやりやすいのではと思います。部活動に取り組んでいる子の中にも学力の高い生徒がいるので、その両立に苦心されていると思いますが、何か工夫をしてほしいと思います。

## 委員

今後、進学を目指す生徒に対しては、習熟度に分けて学力のアップを目指したいと考えています。1、2年生も応用コースで進学希望の生徒を集めていますが、さらに少人数指導で対応したいと考えています。

## 委員

進学面を保護者が一番心配されています。

また、名前だけで高校を選択している部分もあります。

近くの学校で生徒を伸ばしてくれるのであれば、行きたいと思うと思います。進学対応のコースもPRしていくことも大切です。

## 委員

確かに学習意欲の高い生徒が入学することも大切ですが、那賀高校の生徒はみんな挨拶をしてくれます。よその中学校から来た子も挨拶をしてくれます。そういう面が素晴らしいと思います。人間としての生活習慣が身に付くこともPRしてはどうですか。環境も自然が豊かで、ほっとするたたずまいであり、これは地域の持っているよさであると思います。これも他にない特色です。それをどこかで活かしていくこともできるのではないのでしょうか。最終的には人間性の成長ですので、生徒が共に伸びていけるような学校にできればいいと思います。

なお、「なかぎくちゃん」のイメージキャラクターもよかったので、いろいろなところで宣伝して行ってほしいと思います。

#### 委員

就職実績はもちろんですが、那賀町内の中学生に来てもらうためには、進学実績を上げることが重要な課題です。授業評価を行い、教員の力量を高め、生徒の勉強・進学に対するモチベーションを上げることが重要です。

また、市内と離れていると競争意識が低下しますので、その対応として、高校間連携などで他校などに学習合宿に行くことを検討しています。進学希望の生徒をいろいろな学校に連れて行って、競争意識を高めたいと思っています。

また、個別指導、習熟度別指導を進めていきたいと考えています。

#### 委員

やっぱり進学するなら阿南市内の学校に行かせたいと思うのが正直なところ。クラブの面で言えば、全国大会に出られるようなレベルの高い学校に行かせてやりたいと思います。

#### 委員

上那賀より奥に住んでいると、子どもの教育に多額の費用がかかります。高校に行くだけでも大学に行くぐらいの費用がかかります。阿南市内に行くか、那賀に行くか、どちらが子どもの能力を伸ばせるのかを考えます。

那賀高校は寮もあるし、しっかり指導してくれるのであれば、那賀高校に行かせたいと思っている保護者もいるので、そこをPRできればいいと思います。

#### 委員

今のところ新しい寮の新設は難しいと思います。その代わりとなる下宿を探して下さっているようですが、もっと積極的に進めていただきたいと思っています。

#### 委員

今、町の教員住宅の空き部屋を改築して、生徒を住ませることもひとつの方法ではないかと話をしています。その場合は、学習をしっかりするなど住んでいる生徒の指導をきちんと行うようにしていただければと思っています。

#### 委員

中学校と部活動の連携や交流はどうしていますか。

#### 事務局

バレーボールは中学校との合同練習を行っています。カヌーは体育協会やBGなどにより、体験教室を行っています。

夏休みにはそれ以外の部で、中学校から来ていただいて練習しており、ソフトテニスでは中学生を含めた大会を実施しています。

#### 委員

中学校でカヌー部を作るのは無理なのですか。

また、県外から入学してくる予定はあるのですか。

#### 委員

地元の小学生・中学生にカヌー体験などを活発に行っていたらいいと思います。町にバックアップしていただいて連携を行っていききたいと考えています。練習を一緒に行

しやすい環境にはあります。

また、県外の中学生から、一度問い合わせがありました。その後、何もありません。

委員

香川県の高瀬高校は中学校からカヌーをしている生徒が多く、全国的に活躍しております。那賀町はカヌーに最適な環境で、このようなところは少なく、それを活かしていけたらいいと思います。

委員

カヌーについては、小学生や初心者のカヌー教室を開催していますが、中学生は部活動が忙しく、カヌー教室には参加してもらえないのが現状です。

カヌー体験教室など、カヌーに親しんでもらえる行事はしています。カヌーで子どもが来てくれるようにすればいいと思います。全県下的に子どもを集めた取り組みを行いたいと思います。

委員

一緒に取り組んでいくことは可能であると思っています。できることから交流を始めていきたいと思っています。

委員

小学生から教える方が、基礎の飲み込みが早くすぐに覚えます。パドルさばきも次々に覚えていきます。小学生の内に基礎をやっておくと、高校での上達が早いように感じます。

委員

これから広がっていったくれるような方向で考えて行けたらと思います。小学校から野球やバレーがあり、中学校になってからカヌーというのが難しいところです。先輩達がコーチや講師となって指導しながら育てていく形ができたらいいと思います。

委員

中学生は、すばらしい成績をおさめて、高校に進学するときに、テニスなら富東、剣道なら富西と実績のあるところに行きたいと思っています。那賀高校も実績をあげれば、入学してもらえと思っています。

委員

那賀高祭のあり方については何かご意見はありますか。

委員

那賀高祭に参加しましたが、中身のある大変よいものでした。那賀高校の生徒の姿を見ることが大事です。

今は、子どもの声、子どもの姿が見えないように思います。子どもは実際どんな思いで学校に来ているのでしょうか。こちらの考えだけで進めていいのかどうかとも思います。

那賀高校の進路状況は、大学進学、専門学校進学、就職の割合が同じぐらいだと思います。また、近隣中学校の進路担当者の意見では、確実な進路の保障を求めています。食物科にしても看護科にしてもそういう展望を子どもが希望していることが重要です。

また、自然の中で学びたいと思うことも大切です。

実際のニーズと現状をどうやって合わせていくかということです。入学すれば、那賀高

校のよさはわかりますが、一般の方には、那賀高校のよさが伝わっていないように思います。

委員

那賀高祭があることを知りませんでした。ただし、もし知っていても子どもが行ったかどうかはわかりません。やはり昔のイメージがあって、行きにくいように思います。

委員

小学校から参加してもらって、子どもの時からわかってもらうことが大切です。体育祭や文化祭で高校生が活躍しているのを見てもらえれば、自分の進学の際の参考になると思います。そういう機会を設けていくことが大切です。

委員

子どもの話を聞くと、小学生のときからいい高校に行きたいと言っています。こどものときから大切にしたいと思います。

委員

学ぶ環境が一番すばらしいのはどこかということを考慮し、教育方針を考えてほしいと思います。定員についても考慮していただきたいと思います。私は、市内の学校ばかり定員が増えるのは疑問に思います。